

教材名: .....

中心価値: .....

関連価値: .....

〈授業構想の手順〉

1 ねらい 学級の実態 .....

実態を踏まえて焦点化

①	内容項目 ※裏面資料参照	
②	道徳性の諸様相	( ) 判断力 [例] ~はよいことだ。~はよくないことだ。
★		( ) 心情 [例] ~すると気持ちがよい。~すると心が痛い。
		( ) 実践意欲と態度 [例] ~したい。これからは~しよう。
③	中心発問の場面 ● (教材)	

【ねらい】

(③場面と活動) ..... を通して、  
 (①内容項目) ..... [気づき・感じ取り]、  
 (②道徳性) .....  
 [するための判断力・しようとする心情・していこうとする実践意欲と態度] を育てる。

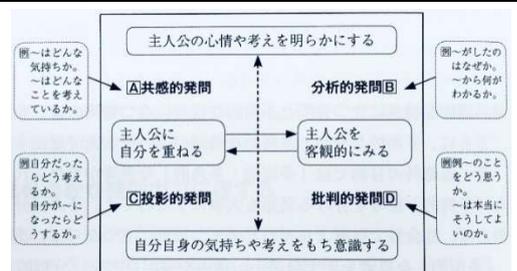
◎【テーマ】

2 展開前段 [人間理解] [他者理解] [価値理解] 教材を通して道徳的価値の理解を高める時間

発問の種類	順	発問	児童の反応
● 中心発問 学習のねらいに迫る発問。 道徳的価値についての新しい気づきや学びのある発問にする。			
基本発問① 中心発問を考えるために必要な心情・状況・価値をpushさえる発問。 ※3つ全て埋める必要はない。			
基本発問②			
(基本発問③)			

※補助発問…各発問でねらう効果を補う発問。授業のある場面で、問い返したり揺さぶったりすることで、児童の考えを深めたり広げたりするなどの効果が期待できる発問。

【参考】発問の立ち位置の4区分 (永田繁雄氏による) ▶



### 3 展開後段 [自己理解] 自分のこととして道徳的価値を捉え、心の変容を図る時間

★道徳性の諸様相に合わせた発問例

( ) 判断力	( ) 心情	( ) 実践意欲と態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇(価値)」とは何か。</li> <li>・～に大切なことは何か。</li> <li>・～するのはなぜか。</li> <li>・本当にそれでいいのか。</li> <li>・～の場合はどう考えるか。</li> <li>・AとB(似ている2つの事柄)の違いは何か。</li> <li>・AとB(一長一短の2つの行動)ではどちらがよいか。</li> <li>・自分から見て、登場人物の行動をどう思うか。</li> <li>・登場人物にどんなことを伝えたいか。(アドバイスや手紙など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じような経験をしたときどう思ったか。</li> <li>・～するとどんな気持ちか。</li> <li>・どんな思いで～するのか。</li> <li>・(気持ちを基に)～するのはなぜか。</li> <li>・登場人物と似ているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に(自分に)生かせそうなことは何か。</li> <li>・～のためには、どのようにしたらよいか。</li> <li>・大切にしたいことは何か。</li> <li>・自分だったらどうするか。</li> <li>・いつでも、どこでも、誰にでも、～できるか。</li> </ul>

#### ◎【後段の発問】

授業前との変容に着目

#### ◎【授業後の児童の姿(変容の姿)】

### 4 終末

実践への意欲付けを図る時間

#### 【終末の活動】

例：(1) 人を活用する。(2) 資料を活用する。(3) 考えを書く。(4) 作品を紹介する。

- |  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説話</li> <li>・ 手紙</li> <li>・ ビデオ</li> <li>・ ゲストティーチャー</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞</li> <li>・ 写真</li> <li>・ 映像</li> <li>・ 音楽</li> <li>・ 本</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詩</li> <li>・ 俳句</li> <li>・ 格言</li> <li>・ ことわざ</li> <li>・ 四字熟語</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業感想</li> <li>・ 手紙</li> <li>・ 日記</li> <li>・ 作文</li> </ul> |
|--|---|---|--|

### 5 導入

興味や関心を高め、動機付けを図る時間

#### 【導入の活動】

- 例：・ 価値についての考えを問う。
- ・ アンケート結果を活用する。
  - ・ 体験活動をさせたり、想起させたりする。
  - ・ 実物に触れさせたり、写真や映像を提示したりする。
  - ・ 名言や新聞記事を紹介する。

## 6 板 書 児童の意見をつなげ、思考の流れを可視化

内容項目	内容項目に含まれる道徳的価値	道徳的価値の見方・考え方	実態による扱い		
			低	中	高
<b>A 主として自分自身に関すること</b>					
(1) 善悪の判断、自律、自由と責任	①正義	自分自身を高め、人間として人とともにによりよく生きること。善を志し、悪を退けること。	●	●	●
	②自主自律	自分の正しいと信じているところから行動し、みだりに他人に動かされないこと。	●	●	●
	③自信	自分が正しいと判断したことを正しいと認識し、それを信じて行動すること。	○	●	●
	④自由	拘束や制約を受けることなく自分の思いを大切に行動すること。自他の自由を尊重しようとする。	○	○	●
	⑤責任	自分がしなければならないこと。自らの行為の結果として不十分なところを補ったり、失ったものを取り戻したりすること。	○	○	●
(2) 正直、誠実	①正直	うそやごまかしをすることなく、人として行うべきことをしっかりと行うこと。	●	●	●
	②素直	ありのままの自分を受け入れ、心正しくふるまうこと。	●	●	●
	③明朗	うそやごまかしがなく、心が晴れやかであること。	●	●	●
	④反省	自分のよくなった点を認めて、改めること。自分の行いや感じ方などを振り返り、よりよく生きようとする。	○	●	●
	⑤誠実	自分の考え方や感じ方を偽ったり取り繕ったりすることなく行動すること。	○	○	●
(3) 節度、節制	①健康	心身ともに元気である状態を維持するため基本的な生活習慣のよさを実感させること。	●	●	●
	②安全	危険な行為をしないこと。危険に直面した際には主体的に危険を回避すること。	●	●	●
	③物持	長く一つのものを持ち続けること。ものを大切にすること。	●	○	○
	④節約	使用することで次第になくなっていくものを無駄なく有効に使うこと。	●	○	○
	⑤整理整頓	正しく整えられた環境で生活するよさを実感し、身の回りを整えること。自他の立場や利便性を考慮して周囲を整えること。	●	●	●
	⑥自立	自分のことは自分ですること。よりよい集団や社会を形成する上で、一人一人の自立した行動が重要であると理解すること。	○	●	●
	⑦思慮	よく考えて行動すること。	○	●	○
	⑧節度	心身の健康や人間関係などについて、よいことや価値あることを度を越さずに適切に行うこと。	●	●	●
	⑨節制	わがままをしないこと。みんなと同じように行動すること。度を越さずよくすることを心掛けること。	●	●	●
(4) 個性の伸長	①個性伸長	自分の特徴に気付くこと。自分の長所を伸ばすとともに、短所を改善し、短所を長所につなげていくこと。	●	●	●
	②向上心	現状に満足することなくより高次なものを目指して尽力しようとする。	○	○	○
(5) 希望と勇気、努力と強い意志	①勤勉	自分のやるべきことに、一生懸命に励むこと。	●	●	●
	②努力	事を成し遂げるために、休んだり怠けたりすることなく、力を尽くすこと。	●	●	●
	③不撓不屈	障害や困難に出会っても、くじけないこと。	○	●	●
	④希望	あることが実現することを強く望むこと。	○	●	●
	⑤勇気	正しいことを、恐れずにひるまないで積極的に行おうとすること。	○	○	●
	⑥克己	自分の内面に起こる欲望や衝動などに打ち勝つこと。	○	○	○

(6) 真理の探究	①探究心	物事の筋道を明らかにしたり、真実を究めたりすること。	●	●	●
	②創意	進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくすること。	○	○	○
	③進取	これまでの習慣や前例にこだわることなく新たな考えを生み出したり、自分なりに工夫して生活したりすること。	○	○	○
<b>B 主として人との関わりに関すること</b>					
(7) 親切、思いやり	①親切	相手のことを自分のことのように密着して考え、相手のために働きかけをすること。	●	●	●
	②同情	相手の気持ちを推察して、相手の感情を共有すること。相手の気持ちを自分のことのように思いやっていたりすること。	●	●	●
(8) 感謝	①尊敬	他者の人柄や生き方、考え方、立ちふるまい、業績などを優れたものとして尊び、敬ったり大切に思ったりすること。	●	●	●
	②感謝	自分に対する他からの好意や恩恵などをありがたいと感じること。謝意を表すこと。	●	●	●
	③報恩	自分に対する他者の思いを理解して、それに対する感謝の念を具体的な形に示すこと。	○	○	●
(9) 礼儀	①礼儀	時と場所に応じて、服装、言語、動作などを適切にし、礼儀作法を正しくすること。心の通った礼儀作法の大切さを理解すること。	●	●	●
	②真心	偽りや飾りのないありのままの心を他者に向けること。	○	●	●
(10) 友情、信頼	①友情	友達の間で、相手の立場を尊重して思いやること。叱咤激励し合いながら互いに人間性を高めようとする。	●	●	●
	②協力	目的の実現や目標の達成に向かって、力を合わせて努力すること。心を合わせて働くこと。	●	●	●
	③信頼	信じて頼ること。信じて任せること。	○	●	●
	④異性尊重	異性を価値あるものとして大切に扱うこと。異性のよさを理解し、敬うこと。	○	○	●
(11) 相互理解、寛容	①相互理解	相手の思いや立場を自分事として考えると同時に、自分の思いや立場を伝えること。	○	●	●
	②寛容	心を広くして相手の言動を受け入れること。相手の過ちや欠点を厳しく責めたり非難したりしないこと。	○	●	●
	③謙虚	相手を敬う気持ちをもって、他者を押しつけて自分が目立とうとすることなく、自分自身を過度に誇示することなく、素直に相手の考えなどを受け入れようとする。	○	○	●
<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b>					
(12) 規則の尊重	①規則遵守	定められたさまじりの意義を理解して、それに従い守ること。	●	●	●
	②公共心	社会全体のために尽くそうとすること。社会連携の大切さを自覚すること。	●	●	●
	③公德心	社会を構成する一員として守るべき正しい在り方を尊重しようとする。不特定多数の人々に対する思いやり。	●	●	●
	④権利	自他の権利についての理解を深め、それらを尊重するとともに、周囲の利益や幸福などにも配慮しながら自分の権利を正しく主張すること。	○	○	●
	⑤義務	自分が果たすべきことは何かを考えて、それらを確実に果たそうとすること。	○	○	●
(13) 公正、公平、社会正義	①公正	個人的な見解ではなく、社会一般で受け入れられている良識に根差して正しいこと。	●	●	●
	②公平	主観を交えずにすべてのものを同じように扱うこと。物事の判断や対応などに偏りが無いこと。	○	○	●
	③社会正義	社会的な常識から考えて、正しいと言える道筋。偏った見方をして人をおとしめたり差別したりしないという強い意志。	○	○	●
(14) 勤労、公共の精神	①勤労	仕事に対して心も体も正対して専念すること。社会的な役割を主体的に遂行するために一生懸命仕事をする。	●	●	●
	②奉仕	自分の利害を優先することなく、集団や社会のためになることを行うこと。	○	○	●
(15) 家族愛、家庭生活の充実	①家族愛	家族のために何かしたい、役に立ちたいと思うこと。	●	●	●
(16) よりよい学校生活、集団生活の充実	①愛校心	自分の在学した、または、在学している学校の価値を認識して、その学校を大切に思うこと。	●	●	●
(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	①郷土愛	自分の生まれ育った土地、自分を育ててくれた地理的環境や文化的環境に対する愛情。	●	●	●
	②愛国心	自分の国を大切に思うこと。自分の国を愛そうとする心。	○	●	●
(18) 国際理解、国際親善	①国際理解	地勢や気候、産業、伝統、文化などについて知ると同時に、風俗、習慣、国民性などの理解をすること。他国の思いや立場を理解し、受け入れようとする。	●	●	●
	②国際親善	国の違いを認め合い、親愛の情をもってよりよい関係を構築しようとする。	●	●	●
	③人類愛	人種や国家などの違いを超えて、人類全体に対してかける愛情。	○	○	○
<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>					
(19) 生命の尊さ	①生命尊重	生命を価値あるものや貴重なものとして大切にしようとする。	●	●	●
(20) 自然愛護	①動植物愛護	動植物をかわいがって、大切にいたわり守ること。	●	●	●
	②自然愛護	山、川、海、草木、動物、風雨など、人間の手によらずに存在しているものを大切に思い、守ること。	●	●	●
	③環境保全	人間をはじめとする動植物の生命の維持及び充実、発展、潤滑な活動などが危機的状況に陥らず、将来にわたって持続可能な状態を保つようにすること。	●	●	●
(21) 感動、畏敬の念	①畏敬	気高く尊いものや優れたもの、立派なものに対して、自分には及ばないことを自覚して敬うこと。	●	●	●
	②敬虔	人知を超えた尊い存在や心の気高さを感得し、敬い慎むこと。	○	○	●
(22) よりよく生きる喜び	①高潔	心が気高く清らかなこと。人柄が立派で、自分の利益を得ようとする利欲によって心を動かさないこと。	○	○	●

●…中心価値や関連価値として扱う場合があるもの

○…関連価値として扱う場合があるもの